

# 今回の協力機関とのWebGISを使った 検討の来年度への展開

平成26年度 海洋・宇宙連携委員会 End-to-Endユーザグループ  
第3回検討会

平成27年3月26日

---

# 1. 今回のデモンストレーションと今後の実証活動

ユーザ活動サーベイ

・ダウンストリーム機関およびエンドユーザの活動を調査する。



海洋WebGIS適用  
利用シナリオ検討

・調査結果をベースに利用シナリオをベースをまとめる。  
・コアサービスおよび標準海洋WebGISの適用可能性を検討する。



プロトタイプによる  
デモンストレーション

・デモンストレーションをエンドユーザおよびダウンストリーム機関に対して行う。  
・ヒアリング結果から標準海洋WebGISの追加機能や性能、データ種類など要件についてのフィードバックを得る



実観測データによる  
プレオペレーショナル  
実証活動

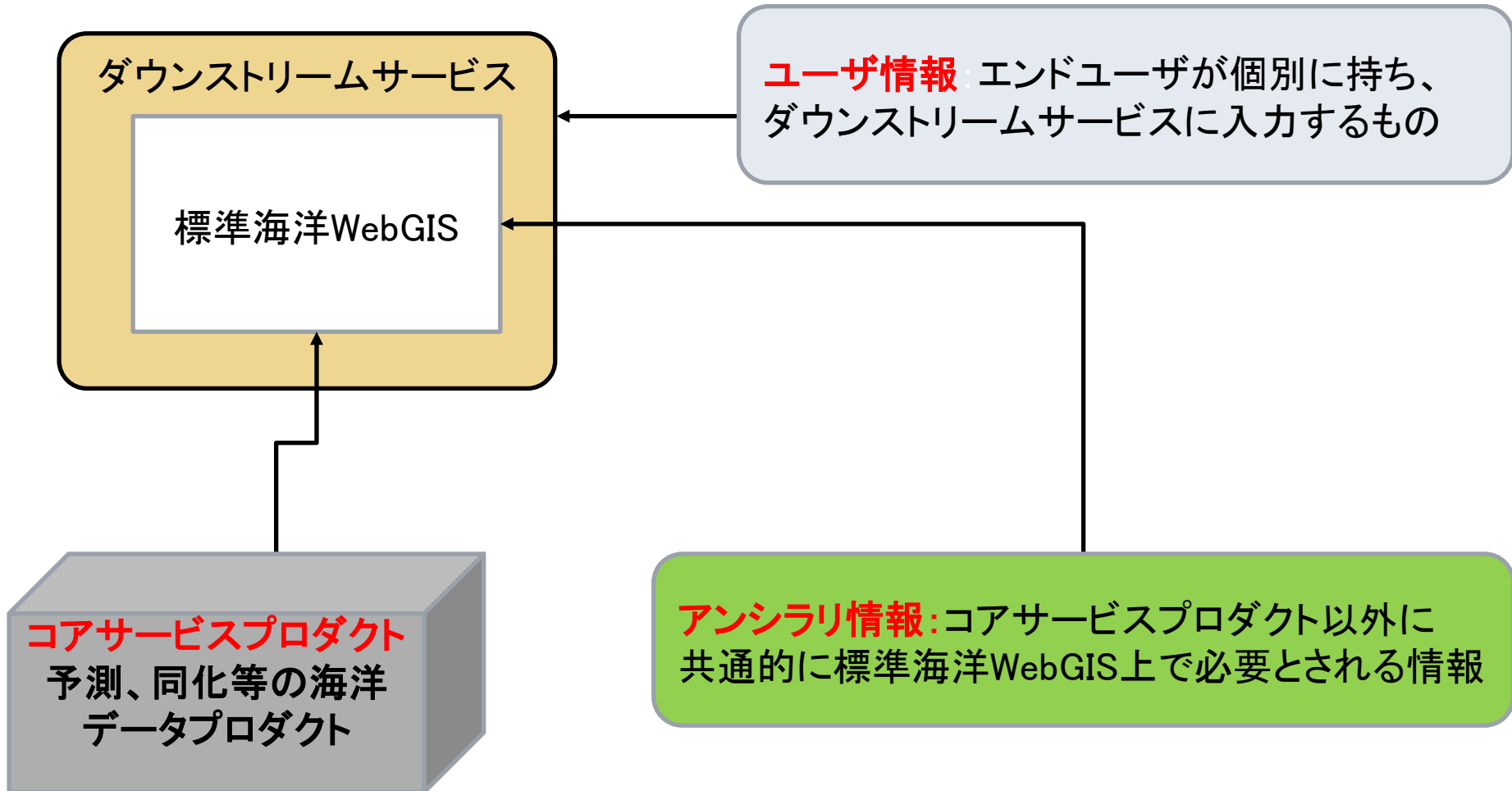
・ダウンストリームサービスに対し、標準海洋WebGISの組み込み等の支援を行う。  
・実観測データを用いて、エンドユーザやダウンストリーム機関と共にコアサービスプロダクトやアンシラリ情報、ユーザ情報の要求整理を行う。  
標準海洋WebGISの機能・性能、について評価を行う。



実観測データによる  
オペレーショナル  
実証活動

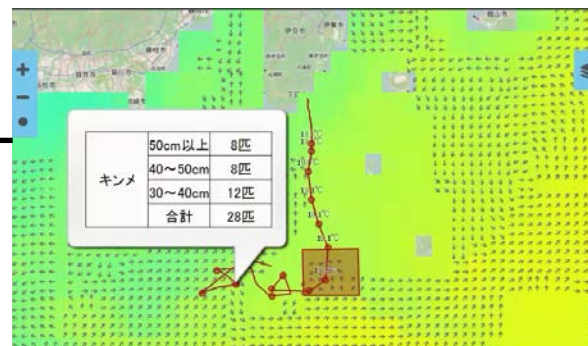
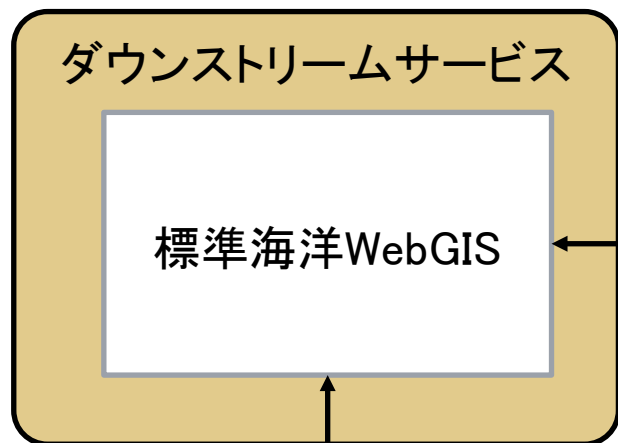
・ダウンストリームサービスに対し組み込んだ標準WebGISの評価をエンドユーザやダウンストリーム機関と共に範囲やデータ量を増やした実観測データを用いて、機能・性能、について評価を行い、コアサービス仕様フィードバックする。

## 2. WebGISへの統合と展開

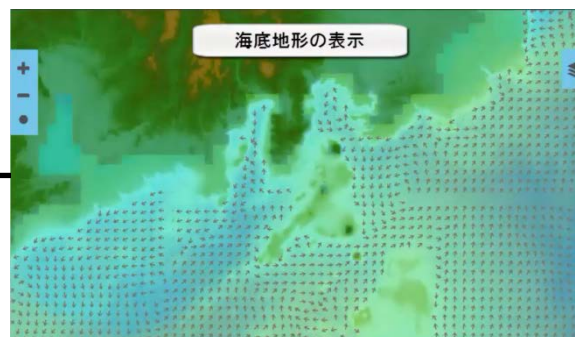
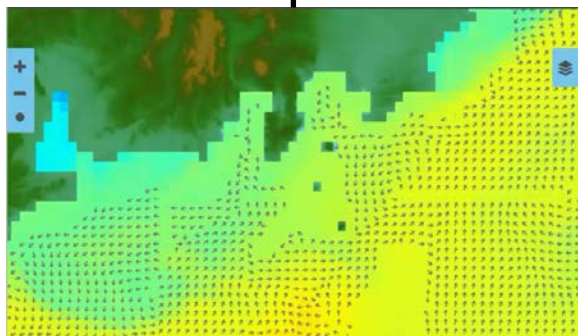


### 3. 必要となるアンシラリ情報の整理

各実証活動を通じてユーザフィードバック等から得た、コアサービス  
プロダクト以外で要求の高い情報を前述のカテゴリで整理する。  
(以下は今回の近海漁業の例。)



**ユーザ情報:** 漁船ユーザが持つ、釣果、  
船舶測定水温、航跡等



**アンシラリ情報:** 海底地形等

**コアサービスプロダクト**

## 4. その他WebGISと連携すべき情報の検討

### 情報のGeocode化

各実証活動を通じてユーザフィードバック等から得た情報の中で、Geocode化されていない(位置等の情報が付与されていない)情報について、位置などの情報の付加とWebGISとの連携について検討、実証する。



Geocode化の例

## 5. 新たな利用分野への展開

本年度のデモンストレーション活動で着手出来なかった以下の分野に対しての展開を行う。

### 赤潮

関係機関  
沿岸漁業者

監視海域を設定し海洋コアサービスのデータによって赤潮発生条件の自動モニタリングを行い、漁業者等に注意報を発信する

- ・赤潮発生条件と情報連絡体制の検討

### 災害

関係機関  
災害時に対応に当たる  
全ての機関

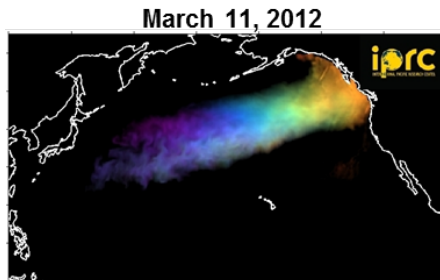
災害発生時の救援活動に利用可能な港湾や航路を予め把握しておくために、海洋コアサービス上に浅海域水深情報を整備し、ハザードマップの海洋版を作成する

- ・浅海域水深情報の整備方法の検討

# 災害関連の分野への展開(3.11問題フォローアップ)



2011/3/14 (JST)  
湾内の漂流物の把握

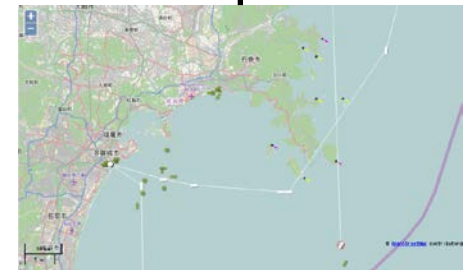


March 11, 2012  
遠洋漂流の予測・把握

震災漂流物ダウンストリームサービス

海洋WebGIS

予測プロダクト、  
コアサービス

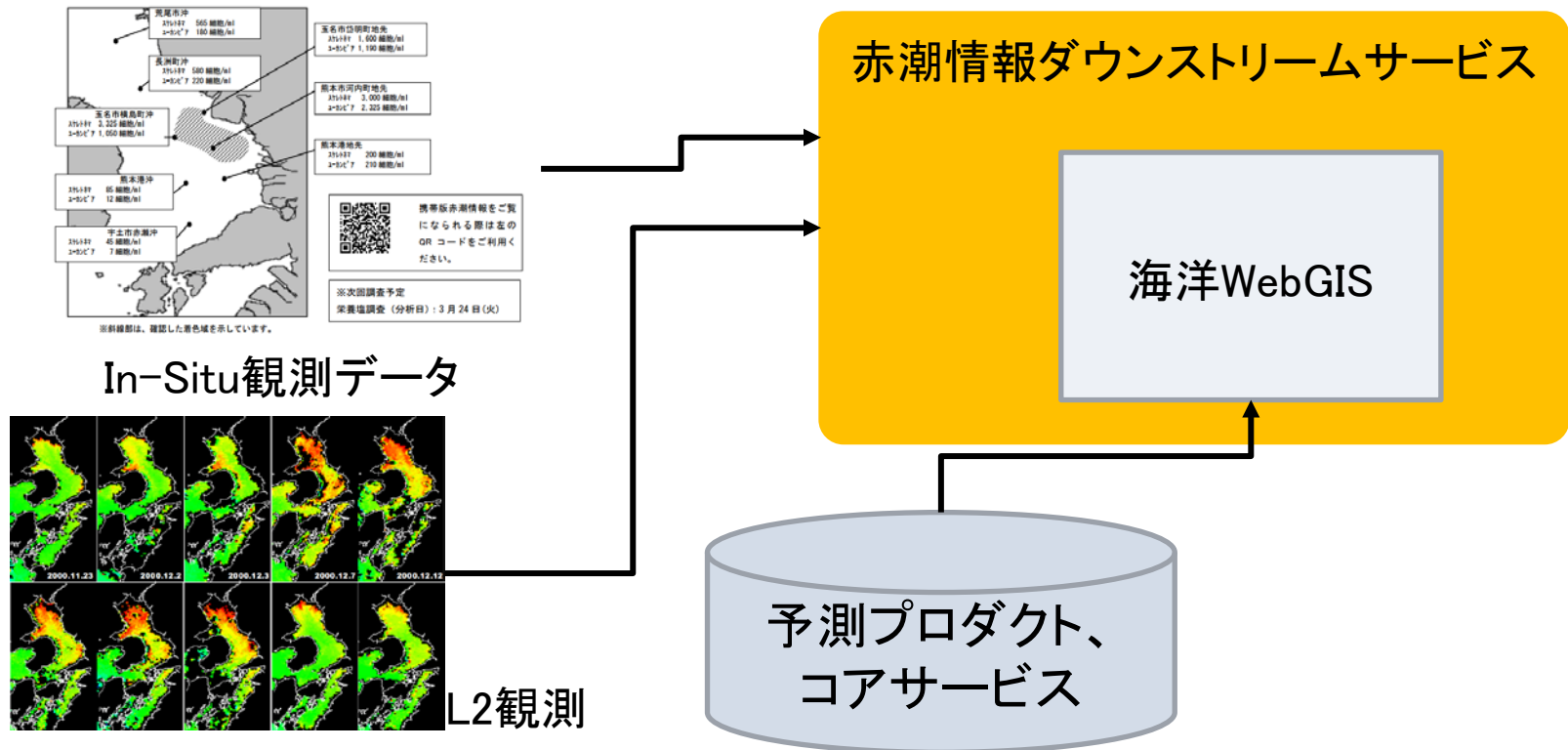


船舶情報

震災漂流物の監視(遠洋と内湾)

- コアサービスによる潮流を活用したがれきの漂流確認
- 高分解能衛星によるがれき分布図の作成
- 移動漂流物の確認と航路の安全確保

# 赤潮など環境分野への展開(In-Situ,予測との連携)



赤潮発生条件を整理し、海洋コアサービスデータを活用したプロトタイプサービスを構築しIn-situデータとともに赤潮警戒活動への有効性を検証する。

赤潮発生事案のマッピングから警報情報と過去情報をWebGIS上に整理し、後分析が可能なサービスのプロトタイプ検証を行う。